

もも・ネクタリン特報

せん孔細菌病の春型枝病斑・葉病斑が多数見られ、県下全域で注意報が発令されました。

- ・引き続き、摘果作業と併せて枝病斑の除去を行ないましょう。
- ・気象庁1カ月予報によると、6月の降水量は平年よりも多くなる可能性が高く、降雨とともにせん孔病の果実感染拡大が心配されます。農薬の付着効果を高めるため、薬剤散布時は固着性展着剤を使用しましょう。また、予防散布のため、降雨前に散布を実施しましょう。

もも



⇒他作物へ飛散しないよう十分注意する。モモとネクタリンの混植園ではネクタリン防除を実施する。
(せん孔細菌病対策として散布間隔10日以内を厳守する)

特別散布

せん孔細菌病の発生が心配される園地は、必ず散布する

散布時期：前回散布から10日以内（6月3日～9日頃）

散布薬剤： 水 100ℓ
マイコシールド 66g（21日前、5回）
KKステッカー（固着性展着剤） 33ml

散布日	6月	日
散布量		ℓ

- *KKステッカーは、よく攪拌させながら最後に混用する
- *KKステッカーに代えて、アビオンEの1,000倍でもよい。

対象病害虫：せん孔細菌病 10a当り散布量：500ℓ

【注意事項】 極早生種（たまき、赤宝等）へ散布する際は、収穫前規制（21日前まで）に注意する。

第7回 定期防除

散布時期：第6回散布から14日以内（6月7日～13日頃）

●上記の特別散布を実施した場合は、特別散布後10日以内（6月13～19日頃）

散布薬剤： 水 100ℓ
デランフロアブル 100ml（7日前、4回）
ダズバンDF 33g（14日前、5回）
マイコシールド 66g（21日前、5回）
KKステッカー（固着性展着剤） 33ml

散布日	6月	日
散布量		ℓ

- *KKステッカーは、よく攪拌させながら最後に混用する
- *KKステッカーに代えて、アビオンEの1,000倍でもよい。

対象病害虫：せん孔細菌病、黒星病、灰星病、ホモブシス腐敗病、シンクイムシ類、ハマキムシ類、ウメシロカイガラムシ

10a当り散布量：600ℓ

【注意事項】

①カメムシ類の発生園は、アルバリン顆粒水溶剤の2,000倍（前日、3回）を特別散布する。

②ハダニ類の発生園は、カネマイトフロアブル1,000倍（7日前、1回）を加用する。

裏面も必ずご覧ください

特別散布

せん孔細菌病の発生が心配される園地は、必ず散布する

散布時期：前回散布から10日以内（6月3日～9日頃）

散布薬剤： 水 100ℓ
マイコシールド 66g（28日前、5回）
KKステッカー（固着性展着剤） 33ml

散布日	6月	日
散布量		ℓ

*KKステッカーは、よく攪拌させながら最後に混用する
*KKステッカーに代えて、アビオンEの1,000倍でもよい。

対象病害虫：せん孔細菌病 10a当り散布量：500ℓ

【注意事項】 極早生種（メイグラント、サマーC等）へ散布する際は、収穫前規制（28日前まで）に注意する。

第7回 定期防除

散布時期：第6回散布から14日以内（6月7日～13日頃）

●上記の特別散布を実施した場合は、特別散布後10日以内（6月13～19日頃）

散布薬剤： 水 100ℓ
デランフロアブル 100ml（14日前、2回）
ダーズバンDF 33g（14日前、2回）
スターナ水和剤 100g（7日前、3回）
KKステッカー（固着性展着剤） 33ml

散布日	6月	日
散布量		ℓ

*KKステッカーは、よく攪拌させながら最後に混用する
*KKステッカーに代えて、アビオンEの1,000倍でもよい。

対象病害虫：せん孔細菌病、黒星病、灰星病、ホモブシス腐敗病、シンクイムシ類、ハマキムシ類

10a当り散布量：600ℓ

【注意事項】

- ①カメムシ類の発生園は、アルバリン顆粒水溶剤の2,000倍（前日、3回）を特別散布する。
②ハダニ類の発生園は、カネマイトフロアブル1,000倍（3日前、1回）を加用する。

今後のせん孔細菌病対策

- ① 春型枝病斑の除去
② 薬剤散布間隔10日以内の厳守
（降雨前の予防散布）
③ 早期袋掛け（本格的な梅雨を迎えるまでに）



春型枝病斑



葉病斑